



令和元年度 市民と市長の意見交換会 ふれあいトーク・レポート

広瀬中学校区 令和元年10月28日(月)開催

ふれあいトークは、市長が市民の皆さまと地域の課題や市政について直接意見を交わし、課題解決に向けての方向性や具体的な方策を確認することで、地域と行政の相互理解を深めるとともに、市民目線での市政運営を進めることを目的に開催しています。

◆令和元年度のトークテーマ

トークテーマ ～子どもたちの未来のためにできること～

トークの柱 『若者が住みたい魅力ある地域づくり』

10年目を迎えた市長と市民の意見交換会「ふれあいトーク」。昨年度からはトークテーマを「子どもたちの未来のためにできること」とし、子どもたちの「教育」について各中学校区単位で意見交換を実施しています。

◆市長から情報提供 とことん住みやすく、力強く発展するまちづくり

●地域の現状等を共有

①宮崎市でも人口減少が進んでおり、今後さらに人口減少が加速する見込みです。

- ・宮崎市全体の人口推移 令和元年 402,524人 ⇒ 令和42年 291,719人 (27.5%減)
- ・佐土原地域自治区の人口推移 令和元年 34,362人 ⇒ 令和42年 23,801 (30.7%減)

②若い世代の転出超過が大きくなっています。そのため魅力的な雇用創出と地元で活躍できる人材育成に取り組んでいます。

- ・宮崎市の年齢別の転入転出数をみると、15～19歳、20～24歳で大幅な転出超過となっています。
- ・市ではそのような現状に歯止めをかけるべく、企業誘致による新たな雇用の創出や、中学生を対象として県内企業を紹介する体験型進学・就職イベントなどを実施しています。

③人口減少が進むことで、地域の課題がより複雑化、多様化しています

- ・人口減少のスピードや高齢化率、歴史・文化は地域によって異なるため、それぞれの地域の特性に合ったまちづくりが求められています。

④地域には様々な組織や団体、行政機能があります。それぞれ連携し、特性を生かしたまちづくりを行いましょう。

⑤地域活動への参加で、元気な地域コミュニティを次の世代につなげましょう。

- ・広瀬中学校区での活動例・健康づくり地区事業、地域安全確保推進に係る事業、中学生ボランティア事業等



▲ 広瀬中学校区の現状や課題、市が現在取り組んでいる施策などについて、市長が説明

◆ フリートーク

● トーク参加者からの意見

- 地域の魅力は人を受け入れてくれる優しさ。佐土原にも気軽に子どもが職業について、体験ができるような「ゆめパーク」的なものと良い。
- 自然環境が豊かで、人間関係も温かいところが広瀬の魅力。結婚への出会いの場をもうけて、若い世代が楽しく暮らせるまちづくりも大切ではないか。
- 職場体験で中学生を受け入れている。農業の楽しさや大変さを分かってもらって、少しでも農業後継者の育成に役立てればと考えている。
- 消防団の夜警に小学生などに参加してもらう取組をしている。中学生にも参加してもらったり、中学生で消防団のような組織をつくったりするような取組みができると良い。
- 中学生の意見で地域に集える場が少ないという意見があったが、公民館をぜひ活用してほしい。中学生など子どもたちが使いやすくできればと考える。
- 広瀬は、安心して子育てできる環境で、見守りなど地域と学校の連携もとれている。ただ、地域づくり協議会のメンバーだけだと大人目線になりがちである。中学生も住民の一人。まちづくりに中学生が関わると、より地域の魅力もアップすると思う。



● 中学生からの意見

- 佐土原は人が優しく、心のこもった挨拶のできる町。これから作っていくのは私たち。ボランティアや学校行事を通して何ができるか考えていきたい。
- 災害が起きた時、高校生は広瀬地域外の学校に行っている人が多いので、大人の次に動けるのは中学生だと思っている。地域のことに詳しい中学生の行動が大切。地域の方に育ててもらった恩返しができるようになりたい。
- 地域でいろいろな世代の方と、定期的に卓球をしている。様々な世代の交流の必要性を実感している。地域の中での若者の必要性が分かった。
- 宮崎の良いところや課題を知った。次はどういうふうになれば、宮崎の課題を自慢に変えることができるのか、地域のために何ができるのか考えていきたい。



● 傍聴席からの意見

- 宮崎は賃金は安い、一方で物価も家賃も安く、食べ物も美味しい。暮らしやすさについて収支と支出のトータルで分析して発信することで、都会に人が流れる状況を変えていくことができるのではないかと。
- 自治会の行事に中学生が参加することは少ない。災害時などに備えて中学生と「顔の見える」関係を作っていきたい。

● 市長からの回答、感想

- これまで広瀬地域の子どもたちと話す機会は少なかったが、佐土原のことをどのくらい知っているのか直接聞くことができた。その考えに対し私たち大人が真摯に答えていかなければならないと感じている。
- 地域活動は「いつも決まった人や団体が集まり行っている」ので内容が固定化されている」とよく言われる。本日のトークでは中学生から自分たちに何ができるかという前向きな発言を多く聞いた。私たち大人は、中学生に参加してほしい事業などは、中学生にプランニングをしてもらおうといった工夫もしていく必要がある。中学生に参加してもらえないと悩むだけではなく、参加する仕掛けや、実際に担ってもらえる役割も考えていくことで、お互いにプラスになるようにしていかなくては。

～参加者アンケートより～

- ★中学生の発言に頼もしさを感じた。ただ、受け皿の狭さ（就職の場）については少し不安が拭えなかった。
- ★もう少し市長と中学生が議論できることを期待していた。フリートークということだったが、やはりどこか固い堅苦しい。でも（このトークを開催）する意義は大きいし、今日の意見はとても価値あるものだと感じた。
- ★もっと色々な中学生の意見も聞きたいし、中学生との意見交換なら中学生の傍聴者も募るといいのではないのでしょうか？

〈お問い合わせ〉

宮崎市 秘書課広報広聴室
TEL 21-1705
FAX 29-6547

